

漫湖水鳥・湿地センターへ

ラムサール条約とは

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。

1971年イランのラムサールという町で採択されたので「ラムサール条約」と呼ばれています。

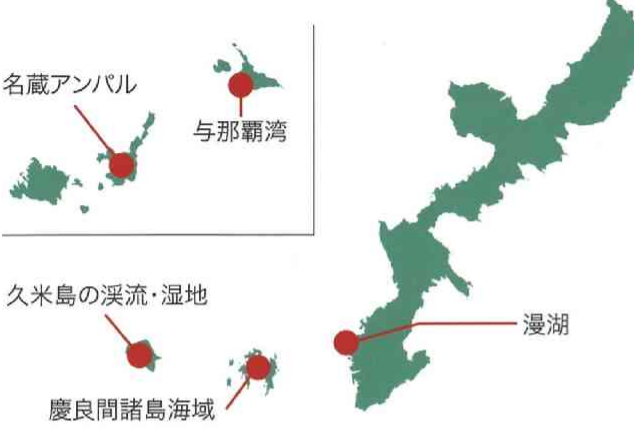
ラムサール条約は、単に“水鳥の保護”のみを目的としたものではなく、“総合的な湿地保全”のための条約であり“ワズユース(賢明な利用)”を義務づけていることが特徴です。

つまりラムサール条約とは、“人と生き物が水辺で生き生きと暮らす”そんな当たり前の幸せのための国際条約です。

県内ラムサール条約登録湿地

漫湖は、全国的にも有名なシギ・チドリ類の重要な渡来地として、また、多くの水鳥等の生息地として重要であるという理由から、1999(平成11)年5月に全国で11番目(沖縄県では最初)のラムサール条約の登録湿地に登録されました。

沖縄県内には、漫湖をはじめとして、2012(平成24)年8月現在5箇所のラムサール条約登録湿地が登録されています。



那覇バスターミナルより車で7分
那覇空港より車で15分
奥武山公園駅より徒歩15分
壺川駅より徒歩25分



漫湖水鳥・湿地センター

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城982
TEL(098)840-5121 FAX(098)840-5118
ホームページ: http://www.manko_mizudori.net/

- 開館時間: 午前9時～午後5時 ●入館料: 無料
- 休館日: 毎週月曜日(休日の場合は翌日)・慰霊の日(6/23)・年末年始(12/29～1/3)
- ※団体利用の場合は事前にお問い合わせの上、お申込み下さい。
- ※幼児のみの入館はお断りしております。

ラムサール条約登録湿地

漫湖

Manko Waterbird and Wetland Center

水鳥・湿地センター



環境省 那覇自然環境事務所
Ministry of the Environment

よろこそ漫湖へ！そして

漫湖とは



かつての漫湖は、あたかも湖のように満々と水をたたえていました。琉球王朝時代には“大湖(たいこ)”と呼ばれていましたが、1600年代半ばに漫湖を訪れた中国からの冊封使(使者)が「漫湖」と名づけたといわれています。その雄大な風景は、黒船で有名なペリー提督や中国からの使者達から絶賛されたといわれています。

1950年代半ば頃の漫湖は、子どもたちの遊び場でもあり、漁業の場でもありました。1960年代以降に埋立などにより干潟化が急激に進み、現在の姿になりました。ペリー達が絶賛した風景は見られなくなりましたが、干潮時には最大47ヘクタールにもおよぶ広大な泥質干潟が出現します。

干潟やマングローブ林の中を注意深く見てみると、驚くほどたくさんの生き物たちがいます。鳥たちは、干潟の稚魚やカニ、ゴカイなどを食べたりしています。食糧となる稚魚や底生生物が豊富な漫湖は、水鳥にとって重要な飛来地で、渡りの中継地となっています。アオサギやダイサギなどの大型のサギ類やムナグロ、キアシシギ、アオアシシギなどのシギ・チドリ類を中心に、クロツラヘラサギやズグロカモメなどの希少な鳥も渡ってきます。

漫湖は水鳥や生き物たちの都会のオアシス!!

漫湖水鳥・湿地センターでその魅力にふれてみませんか!?

漫湖水鳥・湿地センターは「水鳥と湿地と人をつなぐ場所」

漫湖水鳥・湿地センターは、「水鳥と湿地と人をつなぐ場所」として2003(平成15)年5月に開館しました。展示や自然観察会等を通して、センターを訪れる方々に漫湖の自然について紹介しています。



木道

マングローブやそこに暮らす生き物たちを観察できるベストポイント!



イトカケヘナタリ



ヤエヤマシオマネキ



トトシメー
(ミナモトビハゼ)



ダイサギ
9月～翌年5月



ダイシャクシギ
10月～翌年4月



アカアシシギ
9月～翌年5月



キアシシギ
7月～翌年5月



ミサゴ
9月～翌年5月



スグロカモメ
11月～翌年2月



クロツラヘラサギ
11月～翌年4月



アオサギ
9月～翌年5月



ムナグロ
8月～翌年5月

展示室

ジオラマや展示パネル等で漫湖に関する情報を提供しています。



観察デッキ



望遠鏡(20倍～60倍)を常備しています。望遠鏡を覗くと、目の前に漫湖の大パノラマ風景が広がります。